

第29回JAAFコーチングクリニック報告

指導者養成委員会 幹事 森 健一

第29回JAAFコーチングクリニックを2023年3月5日(日) 13:00～16:40にWeb会議システムを利用してリモート形式で開催した。受講生は51名であった。本クリニックはコーチングにおけるヒントや動向などを伝える講習会(コーチングクリニック)として、陸上競技はもとより、指導における広い世界を共有し、新しい知識や情報を得て、指導現場で活かして頂くことを目的としている。

また、本クリニックは日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の更新研修としても位置付けている。

クリニックのテーマを「選手の横に立つとき～わがまま」をエネルギーに～とし、4部構成で行った。

第1部では「指導者への期待～社会の求める姿～」として、山本浩氏(指導者養成委員会委員長、法政大学教授)に担当いただいた。指導者に対する社会からの要請、指導者に対する期待についてお話しいただき、各国の指導者養成の実情も踏まえながら本クリニックの開催意義についても講義いただいた。山本氏には引き続き、第2部および第3部で吉田氏と前田氏の講義後に、質疑応答形式による対談のコーディネーターとしても登壇いただいた。

第2部では、「鍛えるを問い直す」として吉田真希子氏(日本陸上競技連盟オリンピック強化コーチ、東邦銀行陸上競技部監督)に担当いただいた。選手時代と指導者としての現在の立場から、鍛えることについて講義いただいた。努力の方向性の考え方について、「時間や労力をかけるだけのこと、ただ頑張った、一生懸命にやっただけのこと」ではなく、「できないことをできるようにすること、できなかったらできるまでやる」という信念のもと、トレーニングについて考えていたとのことであった。

第3部では、「わがままをエネルギーに」として前田弘氏(2022FIFAワールドカップ日本代表チーフトレーナー)に担

当いただいた。日本サッカー協会がコンディショニングの柱としている4つ(トレーニング、食事、睡眠、リカバリー)について説明いただいた上で、日常生活の重要性について講義いただいた。練習時間が2時間であれば、残りの22時間が日常生活となるため、普段の生活が選手としての結果にあらわれるとのことであった。

今回のクリニックでは、第2部と第3部において講義によるインプットに加えて、受講生同士でのグループディスカッションによるアウトプットの時間も設けた。講義内容について普段の指導に当てはめ、振り返ってもらった。ディスカッションで出された意見については、チャットにて全体に共有するとともに、各部において2つのグループの代表者に口頭で発表いただいた。普段の指導で考えていること大切にしていることなど、貴重な意見が発表され、講義内容をさらに深めることができたと思われる。

第4部では、「選手の横に立つとき」として吉田氏、前田氏を中心にフリーディスカッション形式でお話いただいた。競技者、指導者、トレーナーとしてどのように選手と向き合うか、育成方針や女性選手との接し方、選手の個性(わがまま)をどのように捉えるかなど、自身の経験を踏まえながらの議論であった。第1部から第3部までを振り返りながら、普段から指導者として対応しなければならない内容について広くお話しいただいた。また、サッカー界からみえる陸上界、陸上界からみえるサッカー界についても議論いただき、競技間の違いや共通点から指導に役立つ内容もあり、テーマを深められる議論になったと思われる。

本講習会を通じて、スポーツの種目の垣根を越えた様々な学びがあったことと思う。今後もリモート学習を含めた各種研修会やクリニックを開催し、指導者の学びを支援していきたい。



左から山本氏、前田氏、吉田氏